

2024年度自己評価

学校法人藤天使学園 藤女子中学校・高等学校

1. 教育の目標	カトリックの精神に基づき、教育と研究を通して広い知識と豊かな心を備え、将来家庭・社会を担って行く女性を育成し、且つ国際的視野を持つ教養ある人間を育成する。
2. 本年度の重点目標	・思いやりと温かい心を持ち、明るく素直に人と接する心を育てる。 ・自ら考えて自主的に行動し、自分の言動に責任を持つ力を育てる。 ・自分の持つ特性や能力を知り、それを十分に伸ばすことのできる力を育てる。 ・国際的な視野を育て、世界の中の一員としての意識を育てる。 「ひとりひとりの咲くべき花を咲かせよう ～ うつしく やさしく しなやかに ～」
3. 評価方法	評価方法は次の4段階である。A:大変よくしている B:よくしている C:あまりしていない D:まったくしていない

4. 自己評価結果

分野	評価項目	自己評価	
		達成度	改善の方策
建学の精神	キリスト教(カトリック)の教育観、(人知を超えたものへの畏敬の念を持ち、人間としての愛の心や真の心の豊かさを身につけること)を理解しているか。	B+	教職員研修でイエズス会司祭・上智大学神学部教授の竹内神父様を招き、「いのちの視座」のご講演をいただいた。100周年を迎える記念すべき年、今年度も教職員研修を充実させ、キノルド司教様とシスター方の思いを教職員全体で再確認しながら次の100年へ繋ぐ。 毎日の職員朝礼や職員会議で実施している教職員の祈りを続ける。 教職員日報の「今日の藤」に聖書の言葉と解説を週替わりで掲示し、週始めに読み上げながら教職員全体が聖書に親しむ時間をとる。 今後も全教職員が生徒のありのままを受け入れ、寄り添う心のあり方を研鑽する。
	建学の精神、(キリスト教の愛の精神に基づき、広い知識と豊かな心をもって、家庭や社会を担う女性を育てる)を理解しているか。	B+	
	校訓である謙遜(あるがままの自分を直視し、長所も欠点も素直な心で認め励むこと)を理解しているか。	A	
	校訓である忠実、すなわち家庭、学校、社会に対する自分の務めを責任もって果たすこと、を理解しているか。	A	
	校訓である潔白(身も心も清らかで正しく、良心に従って生きること)を理解しているか。	B+	
学習指導	毎回の授業を充実させ、生徒一人ひとりの学習意欲向上に向けた努力をしているか。	B	中学1年生・2年生の基礎期で、10分間の朝学習(英語・数学)を昨年度も継続して取り組んだ。基礎基本の定着と向上が確認され、学年全体の底上げができた。今年度は中学3年生でも朝学習に取り組み、中学生全体の基礎学力の定着と向上を目指す。 全校生徒が持つ学習手帳「フジロク」の積極的活用を推進し、担任や教科担当者が生徒個々の学習状況の把握に努める。 教員の授業力向上を目指し、前期と後期に互いの授業参観や情報交換を積極的におこなう研修体制の構築を進める。 大学や企業、地域との連携を強化し、最先端の研究や技術に触れること、様々な体験や多くの大人との出会う機会など、学びの場を学年や教科、分掌が積極的に企画し提供するとともに、ラーニングコモンズの整備を進め、生徒が主体的に学ぶ姿勢を育てる。
	生徒からの授業アンケートの結果を授業改善のためにいかしているか。	B+	
	生徒一人ひとりの家庭学習の状況を把握しているか。	B	
	努力した生徒に対し適切な声かけをしているか。	B	
	努力の足りない生徒に適切な声かけをしているか。	B	
	授業開始のチャイムで授業を始めているか。	B+	
	休暇やその他の理由で学校を離れるとき、時間割変更や学習内容の適切な指示で自習とならぬよう努めているか。	A	
生徒指導	生徒心得の内容とそれを守ることの意義を自ら理解し、生徒に理解できるよう折に触れ話しているか。	B	日常生活や行事、ボランティア活動などを通して、キリスト教の愛の精神を伝え、隣人を愛し、他者に寄り添う心を育てる。 SNS等によるトラブルやネット上のリスク・マナーについて、保護者には入学前に、生徒には入学直後のオリエンテーション時に、冊子を配布し丁寧に指導し、生徒が自らの問題として捉えることができるよう、保護者の協力を得ながら指導を行う。 登校に困難を抱える生徒に対し、保健室やステップルーム(別室登校)を活用しながら、全教職員で協力しながら支援を行い通常登校へ導く。 生徒会を中心に、「よりよい学校生活」を目指して、規則の見直しや改善を進め、生徒の自治力や主体的な姿勢を育てる。また、挨拶や身だしなみ、登下校時の公共マナー指導を引き続きおこない、他者への配慮ができる心の育成を継続する。 生徒、保護者へ寄り添う姿勢と、きめ細やかな丁寧な指導を根気強く行うことを全教職員で確認し、情報と支援方法の共有をはかり実践する。
	身だしなみを整えることの意義を理解し、自ら模範となり、折に触れ生徒に伝えているか。	B	
	挨拶をする、時間を守る、話を集中して聴く、自分の言葉で話す、周囲を思いやるなど、良好な人間関係を築くために必要な社会性を身につけられるよう導いているか。	B+	
	生徒の個人的な状況(家庭環境・友人関係・既往症・悩みなど)を知っているか。	B	
	生徒心得が守られていない生徒に、必要な声かけを行っているか。	B	
	生徒指導上の問題が起こった時、適切な人・学年・分掌に相談・報告し、連携して解決に努めているか。	A	
	個々の保護者と良好な関係にあり、特に生徒指導面において連携ができているか。	B	
	生徒指導上の問題で生徒と向き合う時、一人の人格として受け入れ、どのようにすべきか気付くよう愛情と根気をもって指導しているか。	B+	
職場環境	職員同士の挨拶や声かけなどを通して明るく気持ちのよい環境づくりに努めているか。	B+	教職員が互いに声を掛け合いながら、気持ちよく過ごせる職場の環境づくりに努める。 教務支援システムBLENDやClassroom、Google Formsなどを有効活用し、情報共有やペーパーレス化とゴミの減量を継続する。また、業務の効率化をはかり、教職員の働き方改革を推進する。
	職員室・印刷室・休憩室など共有の場で、互いが気持ちよく過ごせるよう配慮しているか。	A	
	コピー機、印刷機、コンピューター、冷蔵庫など共有の設備を、互いが気持ちよく使えるよう配慮して使用しているか。	A	
	節電・節水・紙の節約・ゴミの分別など地球環境を考えた生活をしているか。	B+	

5. 総合的な評価結果

総合評価	今後の方策
B+	生徒の幸せを願い、ありのままを受け入れる寛容な姿勢で教育を推進する。 生徒の学力向上のために、個別最適な学習支援と、希望進路実現へのサポートを充実させる。 選ばれる学校であるために、絶えず検証と評価、改善と実施のサイクルを持ち、本校の特性や魅力の向上をはかる。 本校の魅力を広く伝えるために、入試イベントでは生徒でつくる広報局の活躍と在校生の積極的参加、全教職員による小学校訪問、広報部による中学校訪問と塾訪問を実施する。 創立時のシスター方への感謝と、よき伝統と歴史の継承をおこない、次の100年にむけて藤女子中学校・高等学校のさらなる発展を目指す。